

今回工事での大発見！

■戦前の様子



戦前の写真から、かつて床面は四半敷きであったことが分かっていました。四半敷きとは、石敷き・瓦敷きで、目地が縁に対して45度になるように斜めに敷いたものことで、以前の玄関棟の床の素材は不明でした。発掘の結果、スレートが使われていたことが分かりました。

■戦後すぐの様子



昭和20年の空襲により三溪園内は大きな被害を蒙り、滅失・焼失してしまった建物もあります。臨春閣の第一屋・第二屋・第三屋は半壊に留まり修理が行われましたが、玄関棟は完全に破壊され失われてしまったため、新しく建てられました。



どうして地面を掘ったのかな？

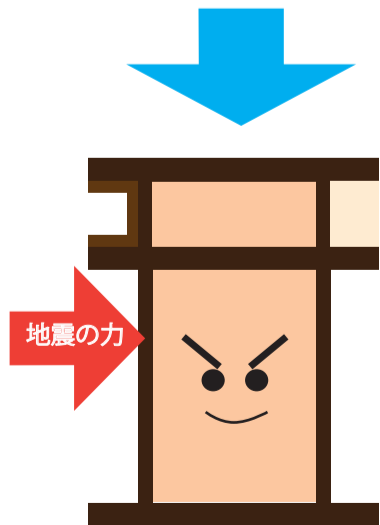
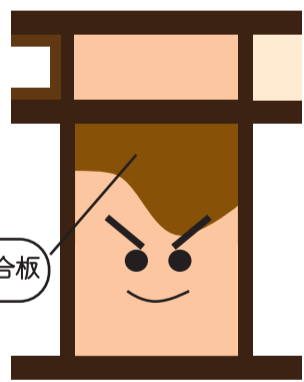
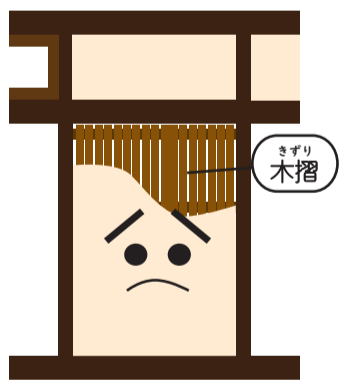
耐震補強工事で、地下に重石を設ける必要があったからだよ。



今回工事における耐震壁設置工事の方策

現在の壁（木摺壁）
弱い壁

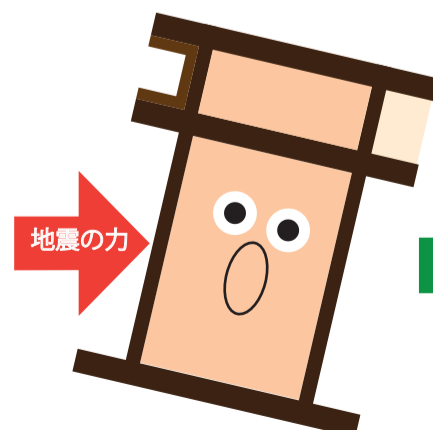
耐震壁（構造用合板）
強い壁



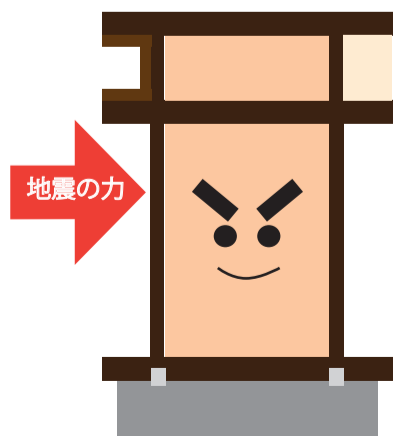
強い力に耐えきれず壊れてしまうかも

頑丈なので壊れない

※表面の見た目はあまり変わりませんが、ここでは分かりやすくするため色を変えています。



壁は壊れないが、力に負けて壁ごと浮き上がってしまう可能性がある



地下に鉄筋コンクリートの重石を設け、重石と壁をつなぎ、浮き上がりを防ぐ